



令和3年度「特色ある学校づくり対策事業」

## 佐世保市立船越小学校

所在地 佐世保市船越町759番地

校長 佐野 貞現

児童数 135名

学級数 9学級（令和3年5月1日現在）



### 学校教育目標

**ふるさを愛し、進んで学び行動する、心豊かな児童の育成**

**～いつでも夢をいだいて～**

### めざす児童像

**やさしい子 考える子 たくましい子**

## 1 目的

本校学校教育目標「ふるさを愛し、進んで学び行動する、心豊かな児童の育成」の中のめざす児童像「やさしい子・考える子・たくましい子」の具現化を図るため、具体的方策に沿った教育実践活動を推進する。

- (1) 確かな学力を付けるため、標準学力調査を前・後期2回実施し、その結果を分析し、学力向上に向けた授業改善に活用するとともに、本校の取り組んできた学力向上対策の効果を検証し、次年度へつなげる。
- (2) 「総合的な学習の時間」における福祉・人権教育、平和教育、自然体験などを中心に、「学びに向かう力、人間性」を育む。
- (3) 花や野菜の栽培、さつまいもや大豆づくり活動などの体験活動を中心に、地域の特性を生かし、学年に応じた地域資源の活用を図る。

## 2 実践事例

### (1) 確かな学力を付けるための取組

#### 標準学力調査による実態の把握と活用

5月に2～6年に、1月に全学年に標準学力調査を実施し、国語科と算数科における実態を把握した。過去（経年と前・後期）の検査結果と比較することにより、各学年及び個人の伸びと課題等の傾向を分析し、子供たちの指導に生かした。具体的には、1回目の検査で、各学年の傾向と個人の課題を明らかにし、学力向上に向けて授業改善を行ってきた。2回目の検査では、実践してきたことが効果的であったのか検証することができ、次年度へ向けての課題を明らかにすることができた。また、保護者面談や学校や学級からの便りを通じ、保護者にも結果や考察を伝えてきた。生活リズムに留意しながら家庭学習の質の改善する家庭も増え、学校、家庭の両面から学力向上において連携することができた。

このことにより、基礎学力の向上と主体的な学びの環境づくりなどの次年度への課題を把握し、個に応じた指導の手がかりとすることができた。



### (2) 総合的な学習の時間の取組

#### ① 第3・4学年 「福祉体験をしよう」

3・4年生が総合的な学習の時間において、ハンディキャップをもつ人や高齢者のことについて体験的な学習を行うことができた。社会福祉協議会の方に全面的に協力いただくとともに、それぞれの専門の方からも学んだ。アイマスク体験や車いす体験、高齢者体験を通して、それぞれの方の社会への対応の仕方や思いに身をもって触れることができた。また、車いすバスケットでは、その能力や技術の高さに触れ、ハンディキャップに関係なく、だれでもスポーツができることを学んだ。

また、高齢者や障がい者のことを、専門の方から学ぶことにより、体験的に理解し、お互いが尊重しあって、生活をしていかななくてはならないという意識をもち、インクルーシブの考え方を自然と身に付けることができた。



## ② 第3～6学年「お茶とお花の体験学習」

総合的な学習の時間を利用し、地域のお花ボランティアの方に来校していただき、茶道や華道の体験学習を行った。4年生以上の学年で一回ずつ実施した。（昨年度、コロナウイルスの影響で実施できなかった4年生も実施することができた。）

お茶の作法を丁寧に指導していただき、作法は相手をもてなすための流儀であることを理解した子供たちは、和やかな中にも、張り詰めた空気の中で取り組むことができた。子供たちにとっては、日本古来の伝統文化にふれ、そのよさを知る貴重な体験となった。

また、ペットボトルを再利用した花器での生け花体験もあり、エコロジーへの意識を高めることができた。



このような伝統文化体験は、日本古来の伝統の奥深さを感じ、大切にしていこうと受け継いでいこうとする意識をもつことに、とても有意義であると肌で感じた。

## (3) 地域の特性を生かした取組

### ① 「野菜を育てよう」「サツマイモを育てよう」

今年度も地域の方から菜園を借り、1年生から5年生、支援学級まで、夏野菜やイモ、大豆、そして冬野菜と、計画的に栽培活動を行うことができた。特に、夏野菜栽培は、低学年の児童や担任には好評で、成長の過程を観察させたり、収穫の喜びを味わわせたりすることができる活動内容となった。また、バッタなどの昆虫も畑で多く見られ、他の単元や教科でも畑での栽培活動との関連を図ることができた。

サツマイモ栽培は、イノシシの被害を受けた昨年度を反省し、今年は柵を万全に作っていただいた。おかげで、今年は鳥獣の被害にも遭わず、大収穫となり、1、2年生児童は生活科の中で料理して味わったり、家に持ち帰って思い思いの料理にしたりして秋の収穫を堪能することができた。



## ②「大豆栽培」「大豆加工品づくり体験」



当初は、自分たちが栽培した大豆を使って加工食品づくりを計画していたが、収穫が無かったことと、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、活動を自粛せざるを得なかった。

そこで、大豆が採れなかった原因の解明や、豆腐の作り方を学ぶために、JAの方や豆腐生産者をゲストティーチャーとして招いて追究する計画を立てることができた。追試として家庭で豆腐作りにチャレンジした児童もあり、目標達成に向け、失敗に終わらず、粘り強く取り組む姿勢も身に付いてきた。このように、地域の方の協力を得ながら、栽培体験を実施してきた。



地域の方がもっている知識や技能にふれ、地域の力強さを感じることもできた。併せて、畑の管理や世話をすることを通して、収穫の喜びや働く人の苦勞を感じると共に、いのちの大切さも学習することができた。